

鬼おに 神がみ

いそたけるのかみ

神の 五十猛 真相に迫る

⑤

三井 淳

ヤマタノオロチ退治の場面では、イソタケルなどとはどこにも登場していない。

しかし、出雲神話の中核ともいえる鳥上(とりがみ)およびその周辺には、イソタケルの祭祀が集中しているのである。その訳は、イソタケルの陵墓がある、鬼神神社の由緒書から垣間見ることが出来る。

「近世に至るまで、怪異なる火の玉、七月七日火の口村(横田町中村の樋口)より発生、斐伊川伝いに此の地に至り後、鳥上の峰に上る。大きき鞆(まり)の如し、習俗龍燈と云う。依ってヤマタの大蛇の魂まつり

なりと」(神國島根)。鬼神神社の看板には、イソタケルノカミにつき、「威武(いたける)の靈力備わり、邪気怨靈折伏(おんりょうしゃくぐく)の神」として

「近世に至るまで、怪異なる火の玉、七月七日火の口村(横田町中村の樋口)より発生、斐伊川伝いに此の地に至り後、鳥上の峰に上る。大きき鞆(まり)の如し、習俗龍燈と云う。依ってヤマタの大蛇の魂まつり

お)の須賀にて、奇稲田媛のただならぬさが、かえつ(くしいなだひめ)との新婚生活を、むさぼっていたのである。親の因果が報いられるのか、子のイソタケルは、ずいぶん割を食ったものだ。それにしても、奥出雲の地にこれだけ詳細にイソタケルの伝説が語り継がれているのは奇妙なことである。本来なら、当然オロチ退治の当事者であるスサノオの

「近世に至るまで、怪異なる火の玉、七月七日火の口村(横田町中村の樋口)より発生、斐伊川伝いに此の地に至り後、鳥上の峰に上る。大きき鞆(まり)の如し、習俗龍燈と云う。依ってヤマタの大蛇の魂まつり

日替わり連載コーナー

◇月曜日は島根県立図書館の「おす
◇木曜日は内藤博之さんの「ガウデ